

但野正弘著 水戸烈公と「藤田東湖『弘道館記』の碑文」

水戸史学会 2002年8月15日発行を読む

「弘道館記」を読む

1. Q 弘道とは何ぞ。

弘道というのはどういうことですか。

A 人能く道を弘むるなり。

人が道というものを弘めることが出来るのです。道が自然のまま弘まるのではありません。我々の努力によって道は弘まり、また道は維持されるのであります。

2. Q 道とは何ぞ。

では人が道を弘めると言いますが「道」とは一体何でありましょうか。

A 天地の大経にして、生民の須臾も離るべからざるものなり。

道というのは、天地 = 自然界における大きな秩序であり、人が生きていく為の、最も大切な筋道であって、生きている人間がどのような立場にあらうとも、一瞬たりとも逃れることのできない、守らねばならない大事なものであります。

[コメント]

幕末の水戸藩に創立された総合大学の「弘道館」の建学の精神を格調高く天下に宣言した「弘道館記」は、明治維新の原動力となった歴史的な文書の一つ。藤田東湖著「弘道館記述義」岩波文庫 1940年2月16日刊を精読するとき、本書は参考になると考える。

- 2009年5月2日林明夫記 -